



独立行政法人国立病院機構
沖縄病院



〒901-2214

沖縄県宜野湾市我如古 3 丁目 20 番 14 号

TEL: 098 (898) 2121

FAX: 098 (898) 6433 (地域連携室直通)

2018 年(平成 30 年)10 月 NO.97 発行地域連携室

NOW!



結核予防週間



国立病院機構沖縄病院
内科部長 仲本 敦

9 月 24～30 日は結核予防週間です。厚生労働省においては、毎年 9 月 24 日から 30 日までを「結核予防週間」として、地方自治体や関係団体の御協力を得て、結核予防に関する普及啓発などを行っております。

結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つです。結核患者数は、結核対策の推進、生活環境の改善などによりわが国の戦後 70 年間で急激に減少し、2016 年度で新規登録結核患者数は 17,625 人、罹患率は人口 10 万対 13.9 となっています。しかしながら、罹患率は欧米と比較して 2～5 倍高く、日本は国際的にはまだ結核の中蔓延国であり、低蔓延化そして結核根絶へ向けて引き続き十分な対策が求められています。

現在のわが国の結核の特徴は、高齢者の割合が高いことで、70 歳以上が 60%以上を占めています。高齢結核患者の多くは、糖尿病などの生活習慣病、認知症やその他の疾患の治療も必要とし、対処が難しい場合が多くなります。

一方、若年では、外国籍の若者の割合が増加しており、ネパール、ベトナム、中国、韓国などのアジア諸国からの語学

留学や職業実習などを目的とした 20～30 歳代の患者数が増加傾向にあります。外国人結核患者さんの診療においてはコミュニケーションに支障が生じ、苦勞することも多くあります。

結核は発症早期には目立った症状が少ないのが大きな特徴です。微熱程度で風邪の症状が長引くというぐらいのことも多くあります。病状が徐々に進行すると咳嗽、喀痰、発熱などの様々な症状が出現してきます。長期間(2～3 週間)にわたり咳の続く患者については必ず結核を疑って胸部 X 線検査や喀痰の抗酸菌検査を実施する必要があります。結核の早期診断の第一歩はまず結核を疑うことから始まります。



基本理念

患者さまの立場を尊重し
高度で良質の医療を提供します

運営方針

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者様の視点に立った、あたたかく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

GINOWAN CITY FM 81.8MHz
ぎのわんシティFM

毎週月曜日 9 時 30 分から当院職員による病気に関する様々な情報をラジオ放送しております。当院 HP にも放送内容を掲載していますのでご覧ください。



ねたて内科クリニック

- ◆診療科目 / 内科・脳神経内科・リハビリテーション科(外来・難病)
- ◆所在地 / 宜野湾市嘉数 1-22-5
- ◆電話番号 / 098-890-1500
- ◆休診日 / 木曜・日曜・祝祭日・年末年始
- *受付は診療終了の30分前までにお済ませ下さい



院長 花城清祥先生

沖縄病院と連携していただいている医療機関をご紹介します

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	/	○	○	/
午後 14:00~17:30	○	○	○	/	○	○	/

今年6月1日より宜野湾市嘉数に開業しました、ねたて内科クリニックの花城と申します。

私が沖縄病院に在籍していたのはもう10年以上前のこととなります。当時は駆け出しの神経内科医で、諏訪園先生や末原前神経内科部長から神経内科の基礎を教わりました。また、現神経内科部長の渡嘉敷先生は琉大病院時代の恩師でもあり、渡嘉敷先生の下で貴重な経験も積ませていただきました。こうしたご縁もあって、沖縄病院さんには非常に親しみを覚えています。当院では内科・脳神経内科・リハビリテーション科を設置していますが、特に神経難病の患者さまには内服治療と並行してリハビリテーションを行うことに力を入れています。神経難病は病気が進行すると日常生活に支障を来すため、自立した生活を維持していくためには内服治療とリハビリテーションを表裏一体で行うことが重要です。沖縄病院さんとも連携しながら患者さま個々にあった治療を提供していけるよう努めて参ります。従来の外来リハビリテーションだけでなく、難病に特化した難病リハビリテーションも提供しています。詳しくは当院までお気軽にお問合せください。地域に必要とされるかかりつけ医として、また神経難病の診療・リハビリテーションを提供する専門医として、信頼されるクリニックを目指し頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

ねたてとは、古語「おもろさうし」に表された言葉で、「物事の根元」または「共同体の中心」を意味しています。(宜野湾市ホームページより)宜野湾市民の合言葉として親しまれている「ねたての都市(まち)・ぎのわん」は、市民が主役(中心)という意味がこめられており、当院では「患者さまが主役(中心)の医療」「皆さまから親しまれ信頼されるクリニック」を目指していきたいという想いから「ねたて」という言葉を名前に使用しました。

プロフィール： 沖縄県那覇市生まれ
平成14年 琉球大学医学部医学科卒業
日本内科学会 認定内科医
日本神経学会 神経内科専門医



西病棟 イベント



西病棟 秋まつり

10月26日。清々しい秋晴れのもと「西病棟秋まつり」を開催致しました。

実行委員長挨拶の後、あゆみ保育園による子どもエイサーでスタートしたアトラクションでは、当院のかりゆし太鼓クラブのエイサー、当院院長の琉舞、SSカンパニーによるバンド演奏、大道芸人「けんぢ」さんのステージ、沖縄ダルクのエイサーなどで大いに盛り上がりました。

会場では利用者やスタッフなどが企画した夜店での食べ物や飲み物の販売や一銭まちや、「えかきやさん永梨」さんのポテイペイントなどの出店があり、入院者や地域の方をはじめ多くの方にご来場いただきました。

今回「西病棟秋まつり」を無事に開催出来ましたことを、ご協賛、ボランティアへのご協力を頂きました皆様、ご出演・ご出店頂きました皆様にご心より感謝申し上げます。



リハビリテーション科からのご案内

ロボットスーツ HAL サイズ変更しました

リハビリテーション科
理学療法士長 今村 康子



平成 29 年 3 月より HAL®医療用下肢タイプを導入しています。HAL®(Hybrid Assistive Limb ®)とは、身体機能を改善・補助・拡張・再生することができるサイボーグ型ロボットです。HAL を装着することで「人」「機械」「情報」を融合させ、動きをアシストしたり、いつもより大きな力を出したり、脳・神経系への運動学習を促すシステムです。当院にある医療用下肢タイプは、足やお尻の皮膚に電極を貼り付け、皮膚の表面を流れる電気信号を感知して足の運動を助けつつ歩行運動を繰り返すことで、歩行機能の改善を図ります。

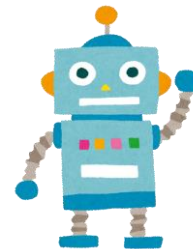
HAL®の重さはバッテリーも含めると約 14Kg あり、装着するだけでも患者様には大きな負担となりますが、やった後の充実感と、少し歩きやすくなったかなあ・・・という期待感から“やってよかった！”という感想が寄せられています。H30 年 3 月より HAL®を S サイズに変更し、身長 150cm~165cmの方が対象となりました。介助または歩行補助具(杖や歩行器)を使うことで 10m 以上歩行可能な方で体重が 40Kg~100Kgの方が適用です。腰痛のある方や脊椎・下肢の変形の強い方は HAL®の装着自体が困難なため適応外となります。HAL®を実施するのは、装着や疲労感を考慮して入院でのみとし、入院期間は 4 週間が目安です。

【適応疾患】

球脊髄性筋萎縮症 脊髄筋萎縮症 筋萎縮性側索硬化症 シャルコー・マリー・トゥース病
遠位型ミオパチー 封入体筋炎 先天性ミオパチー 筋ジストロフィー



リハ文責:リハビリテーション科 HAL®チーム



難病医療コーディネーターの紹介



難病医療コーディネーター
新里 恵



当院は平成24年度より、難病拠点病院・難病医療コーディネーターとして対応を行っています。

【難病医療コーディネーターの役割】

- ・難病医療の確保に関する関係機関との連絡調整
- ・患者等からの各種相談を受け必要に応じ保健所等の関係機関への適切な紹介や支援要請
- ・患者等からの要請に応じて入院患者の紹介を行うなど、難病医療確保のための連絡調整
- ・医療従事者向けに難病研修会を開催

今年度は台風が多く、在宅重症難病患者様の台風避難レスパイトの調整対応に多忙となりましたが、在宅患者様が安心して療養できるよう迅速に対応をいただいた地域医療機関に感謝しています。また、年 2 回在宅重症難病従事者研修会を開催実施予定し、医療従事者へ研修の場を提供できるよう計画していますので是非ご参加して下さい。



認定看護師の紹介



緩和ケア認定看護師 奥間 かおり

患者や家族は病気と診断されることで心や体だけでなく、経済面や社会的な役割の喪失、病気になった意味などに向き合いたくさんのつらさを抱えます。そのつらさを、医師、看護師、薬剤師、栄養士、心理士、MSW と一緒に考え、患者や家族に寄り添いつらさを緩和するためチームの一員として活動しています。治療に向き合う気持ちを支え、生活のしやすさを一緒に考えていくことが役割です。いつでもご相談ください。



がん放射線看護認定看護師 西本 麻里子

当院では、根治・緩和・予防など様々な目的で放射線治療が行われています。私は、外来・入院で放射線治療を受ける患者さんの診察の介助を行い、オリエンテーションやケアを通して、患者さんの不安の軽減に努めています。さらに患者さん自身にも治療に参画していただき、副作用の早期発見ができるようにセルフケア指導も行っています。また、患者さんの治療目的を多職種で共有し、医療チーム全体で患者さんを支援する体制を構築するための調整の役割も担っています。



がん性疼痛看護認定看護師 伊良部 梨知子

がん患者の約半数以上は、何らかの痛みを抱えているとされており、がん治療の過程では身体的な痛みのみならず、社会的・精神的・スピリチュアルといった様々な痛みを経験します。痛みを我慢する事で、患者様やそのご家族の QOL(生活の質)が低下し、治療に対する意欲も無くなってきます。様々な痛みと向きあう患者様とご家族を支援し、少しでも痛みが和らぎ穏やかな日常が送れるように手助けするのが、がん性疼痛看護認定看護師の役割です。



がん化学療法看護認定看護師 名城 優喜

がん化学療法看護認定看護師の役割には、がん化学療法を受ける患者さん・ご家族の身体的・心理的・社会的な状況を包括的に理解し、安心して治療が受けられるように支援することです。副作用に対しては、最小限にするために患者さん・ご家族と共に対策を考えながら、自分らしい生活が継続できるように支えていきたいと思っています。副作用や生活の事についてお困りな事はお気軽にご相談下さい。



皮膚・排泄ケア認定看護師 阿部 香澄

私たちの皮膚・排泄ケア領域とは、W;創傷、O;ストーマ、C;コンチネンス(失禁)のケアの3領域を指します。健康を害した皮膚ならびに皮膚障害のリスクの高い脆弱な皮膚に対するスキンケアを中心に、創傷管理や排泄ケアを行っています。皮膚状態や排泄の問題は患者さんの QOL にも大きく影響します。皮膚のトラブルや排泄の問題は入院中だけではなく、退院後も適切なケアが継続され、患者さんやご家族が安心して社会生活を送れるよう支援していきたいと思っています。



摂食・嚥下障害看護認定看護師 大村 葉子

「食べること」は、栄養を摂取することだけでなく、美味しい楽しいといった満足感や幸福感を得る行為であり、生きる喜びや活力にもつながります。加齢や疾患により「食べること」が障害された患者様に対し、誤嚥や低栄養などのリスク管理と安全に美味しく楽しく食べるための支援を、多職種と協働し実践することが摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割です。患者様の「食べたい」気持ちに寄り添い、摂食・嚥下障害に対する看護の質の向上に努めていきたいと思っています。



感染管理認定看護師 谷村 久美

沖縄病院で感染管理の専従担当者として勤務しております感染管理認定看護師の谷村と申します。院内では抗菌薬使用患者や血液培養陽性患者、耐性菌検出患者を対象に、医師、薬剤師、検査技師、看護師で構成された感染対策チームの一員として毎週院内ラウンドを行っています。認定看護師の役割の一つに「相談」があります。感染対策に関する事でご相談がございましたら声をお掛けください。



感染管理認定看護師 竹田 美智枝

平成26年に福岡東医療センターにて感染管理認定看護師になり、第I種感染症指定医療機関ということで、エボラ出血熱疑似症患者の対応などを実施しました。今年の4月に看護師長として沖縄病院に移動してきました。移動後すぐに、インフルエンザのアウトブレイクがあり、沖縄は夏にもインフルエンザが流行するとは聞いていましたが、地域の違いを実感することとなりました。現在、結核病棟に配属となり、これから病棟のスタッフと協力し、感染対策に努めていきたいと思っています。